

施設愛称は「わっかりうむ」に決定！ ～ノシャップ寒流水族館開館 50 年をお祝い～

7月21日(土)、ノシャップ寒流水族館で「開館50周年記念セレモニー」が行われ、来賓や市民の皆さん約100名の参加をいただき50年の節目を祝いました。

平成26年から水族館と科学館を一元化し、今回、施設の愛称を募集したところ197件の応募があり、その中から奥村武士さん(海上自衛隊稚内基地分遣隊長)の「わっかりうむ」に決定。

工藤市長と除幕を行った奥村さんは「光栄です。未永く市民の皆さんに愛していただければ」と話していました。また、この春生まれた2頭のアザラシの赤ちゃんの命名式も行われ、オスは「ラッキー」【命名：森董恋さん(宗谷小5年)】、メスは「ナナ」【命名：香川莉菜さん(東小3年)】に決まり、賞状が贈られました。香川さんは「私と妹の名前を組み合わせました。実際に会ったけど、目がとってもかわいかった」と感想を話してくれました。

このほか館内では50年のあゆみをふりかえる歴史パネル展や、友好都市の石垣市と枕崎市からやってきた魚たちを展示していて、来館者を喜ばせていました。

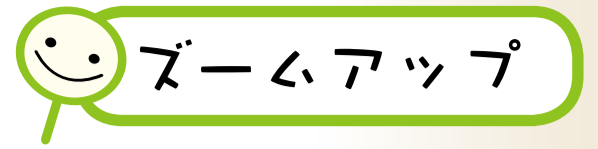


工藤市長と除幕する奥村さん

稚内の「わっか」に「理解する」の「わかる」アクアリウムの「リウム」を組み合わせ、地域性と学びの場を表しています。



メスのアザラシに「ナナ」と命名した香川さん



ぱしふいっくびいなす寄港



南中ソーランを披露しお見送り

7月10日(火)、市制施行70年・開港70年を記念して、大型クルーズ船「ぱしふいっくびいなす」が稚内港末広ふ頭に寄港しました。寄港を記念し催された船内見学会や食事会では市民80名が豪華な船内を見学。クルーズの雰囲気を楽しみました。

出港の前に南中ソーランの演舞や稚内海峡太鼓の演奏が披露され、「また来てね～」の声で見送るとぱしふいっくびいなすは次の航海へと旅立っていきました。

15年ぶりの日本縦断目指して



宗谷岬を出発する石川さん

ベトナム戦争や沖縄の米軍基地の報道で知られる報道カメラマン石川文洋さん(80歳 長野県在住)が、徒歩による日本縦断を目指して、7月9日(月)宗谷岬を出発しました。

15年前にも日本縦断を達成している石川さん。「前は日本海側を歩いたけど、今回は太平洋側を歩いて東日本大震災の復興の様子もこの目で見たい。80歳でも元気で色々なことがやれるんだ、と同年代の皆さんにも伝えられたら」と新たな挑戦に意気込んでいました。

来年2月中旬に、生まれ故郷の沖縄県那覇市到着を目指します。

補給艦「はまな」寄港



艦長らへ花束の贈呈

7月14日(土)、稚内港末広ふ頭に海上自衛隊補給艦「はまな」が入港。艦長らに花束が贈られたほか記念プレートの交換などが行われました。

2日間にわたり一般公開も行われ、その雄姿を一目見ようと多くの市民が訪れていました。

ドームに響く美しい音色



明楽さんによるチェンバロの演奏

7月14日(土)、北防波堤ドームで「開港70年第16回WAKKANAIみなとコンサート in みなとオアシスわっかない」が開催され、9団体が出演。合唱や演奏、踊りなどで来場者を楽しませていました。

今年はスペシャルゲストとしてチェンバロ奏者の明楽みゆきさんがステージに登場。繊細な音色をドームいっぱいに響かせ、会場を魅了しました。

ホテルの光を次世代に つなげるために



富磯小学校による発表

7月20日(金)～22日(日)、「第51回全国ホテル研究会稚内・豊富大会」が稚内と豊富の2会場で開催され、道内をはじめ全国でホテルの研究を行う団体、研究者など200名が出席しました。

21日(土)は総合文化センターで各種研究発表等が行われ「クサノハの少年団」の団員(南小学校児童)が登壇し、これまで行ってきた少年団の活動について発表したほか、富磯小学校全校児童が「稚内市の自然環境を考える」と題し、学校で代々取り組んできた「サケ稚魚放流」を通して学んだ内容や自然環境を守っていくためにできることなどを発表しました。

興味深々！新聞ができるまで



(株)宗谷新聞社を見学する児童

6月30日(土)、教育委員会主催の「子どもの広場」では新聞の作り方を学習しようと市内小学生児童7名が(株)宗谷新聞社を訪れました。宗谷管内の情報がたくさん詰まった「日刊宗谷」の説明を受け、施設内を見学。印刷室では新聞を刷り上げる機械のスピードに驚いた様子でした。

疑問に思ったことを質問したり、真剣なまなざしでメモをとるなどそれぞれに学びを深めていました。